

## レゴにムーミン、地域活性化をお手伝い

### ◆日本初上陸「レゴランド」は、名古屋のイメージアップに寄与するか

デンマーク発のブロックおもちゃレゴの屋外型テーマパーク「レゴランド」が、2017年4月名古屋市港区金城ふ頭に開業する。対象は2～12歳の子どもを持つ家族で、世界7カ国8カ所目の展開となる。40以上のアトラクションがあり、日本の10カ所の景色やまちなみを1千万個以上のレゴを使って再現する「ミニランド」や、レゴ潜水艦に乗って水中を旅する「サブマリン・アドベンチャー」などがある。レゴランドは、建設候補地が他にもあったが、名古屋市が誘致に成功した。駐車場などの整備は市が行い、周辺にはホテルや商業施設も計画されている。

観光庁の15年の観光目的の宿泊者数調査で、愛知県は全国23位にとどまった。名古屋市観光文化交流局は、16年7月「都市ブランド・イメージ調査」結果を発表したが、主要8都市、札幌、東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、福岡との比較調査で、「訪問意向」では最下位になるなど、総じて名古屋市の魅力度は低い。レゴランドの誕生で、「行きたくない街」No1の汚名返上となるかにも注目だ。

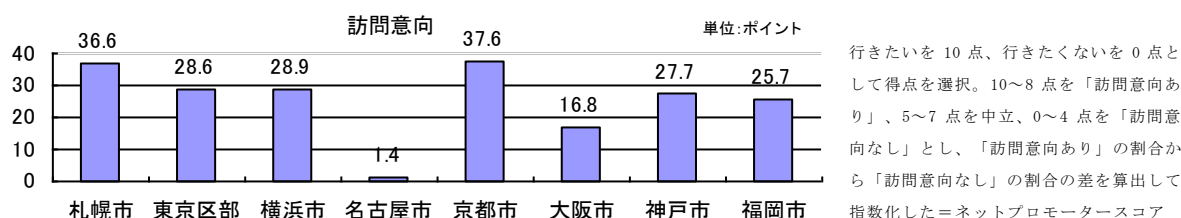


図 各都市を買い物や遊びで訪問したいか＝「訪問意向」 出所：名古屋市観光文化交流局

### ◆ねえムーミン、こっちへ来て：飯能は北欧の雰囲気を経験できる施設を誘致

フィンランド発ムーミンのテーマパーク「メツァ(フィンランド語で森)」は、埼玉県飯能市宮沢湖畔に17年春に着工し19年開業予定だ。ふるさと納税の返礼品にムーミングッズも用意し、既に5千万円以上の寄付を集めた。同市は「森林文化都市」を宣言、エコツーリズムなど豊かな自然環境をアピールしたまちづくりを進める。メツァもムーミンだけに依存せず、北欧のライフスタイルが体験できる「メツァビレッジ」も併設し、地元産食材の提供やサウナ付宿泊施設も設ける。北欧発のコンテンツの活用法は、地方創生の参考にもしたい。【赤山英子】